

8. 子どもの生活の理解

子どもの生活の理解

- 規準** 12a 自分の住んでいる地域の特性を把握している。
13b 防犯活動に取り組みやすい環境作りに取り組むことができる。
26a 子どもの発達段階や心理等について理解している。
42b 校外での安全管理の取り組みについて問題点を把握し、その改善策を企画・実行できる。
- ねらい** 12a ⑤ 子どもの行動範囲や遊び場を把握している。(放課後預かり施設など)
 13b ② 子どもが相談しやすい地域づくりについて説明できる。
 26a ① 子どもたちの一般的な生活のサイクルを知っている。
 42b ⑥ 子どもを心で抱く方法を知っている。

子どもの安全を守る活動において、その対象である子どもたちが、日常生活でどのようなことに時間を割いているのかを把握することは重要なことです。多くの場合、学校がある平日は、起床から学校、放課後から就寝まで、大抵は決められた時間の中で集団的行動をとっています。

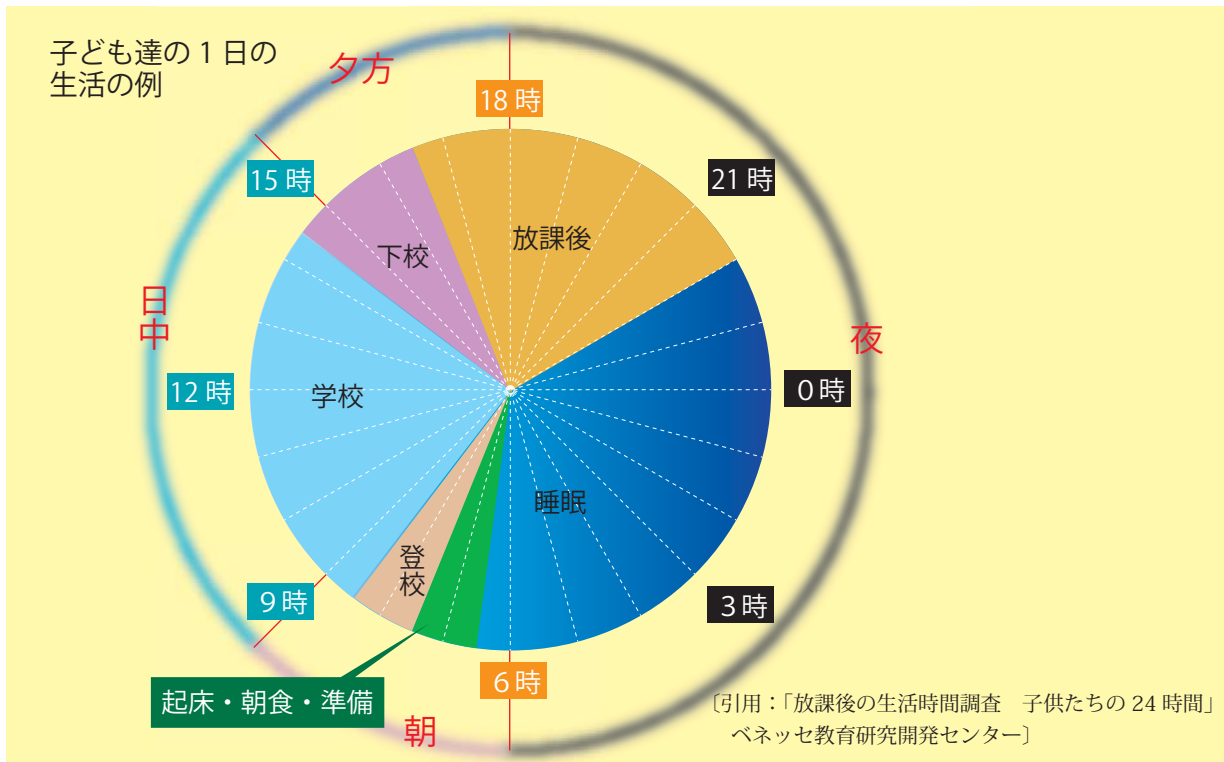
心身共に未成熟で成長過程にある子どもたちは、周囲の環境の変化に影響を受けやすい面を持っています。子どもたちの生活にさまざまな影響を与えるものとして、経済的なもの(経済不況)、家庭的なもの(親の生活態度の変化)、技術的なもの(携帯電話、パソコン、ゲーム)、国の教育改革による教育指導の変化(キャリア教育重視)などがあります。学校での様子や授業の内容が「学校だより」などで地域に発信されている場合でも、いつもと違う異常な行動が見られたら、子どもたちの学校生活の様子を、学校に聞くことも必要なことです。

①子どもたちの一日の流れ

次ページの表によると、子どもたちは、6時半から7時の間に起床し、8時から8時30分の間に登校します。学校の始業は午前8時40分頃で、授業は基本的に1、2年生は5時間、その他の学年は6時間あります。1、2年生は14時30分頃、3年生以上は15時30分頃授業が終わります。下校時刻は14時30分～16時30分と幅があります。また、学校によっては下校時刻まで、運動場などで遊ぶことができます。

「学童クラブ」や「放課後まなび教室」に登録をしている子どもは、放課後をそこで過ごします。また、高学年を対象にした部活動を実施している学校では、週に1回程度、サッカー、バスケットボール、バレーボール、クラフト、茶道などの部活動に放課後参加する子どももいます。

放課後、子どもだけで自由に遊びに行く場合もありますが、校区外へ出かける場合は基本的に大人と一緒に決めている学校が多いようです。地域によっては、高学年になると図書館や科学センター、コミュニティセンターなどの公共施設には、集団であれば子どもだけで行くことができる場合もあります。また、学習塾や習い事に通っている子どもも多く、小学生の場合は午後7時から9時頃には家に帰ります。就寝時刻は、低学年では午後9時頃が多く、高学年になるほど遅くなる傾向があります。

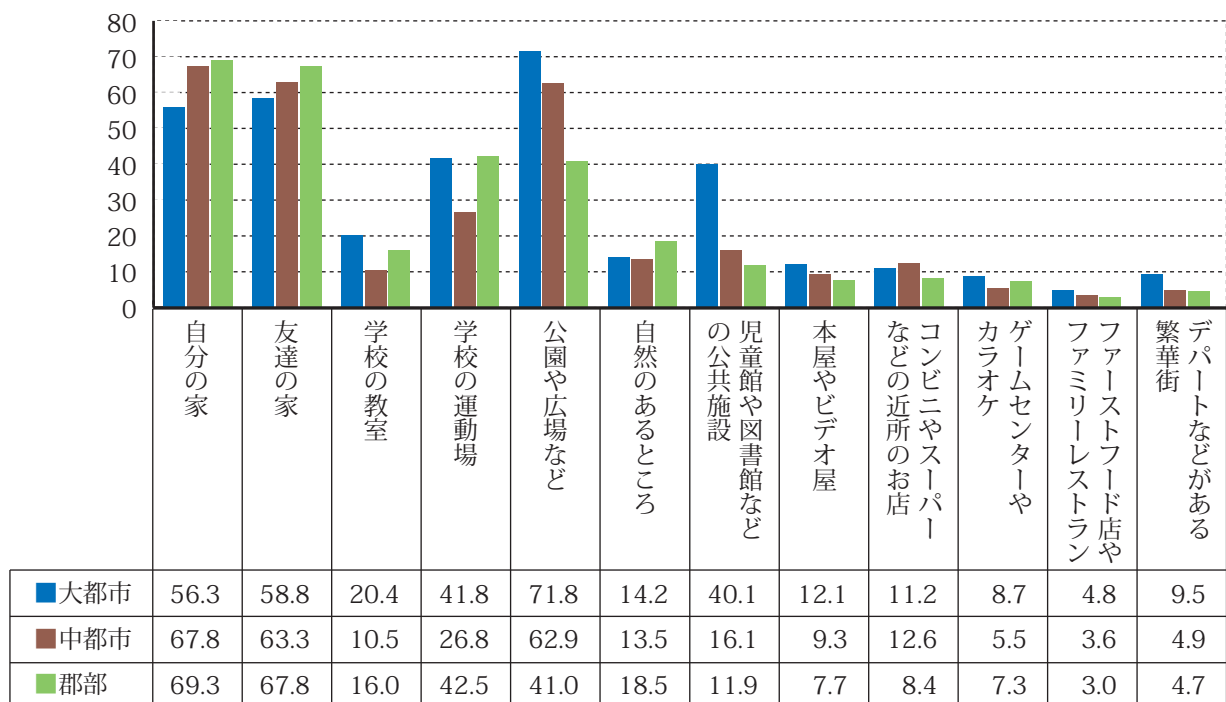


②子どもの生活範囲や遊び場を把握している

(1) 放課後の子どもたちの遊び場

下のグラフによると「自分の家」、「友達の家」、「公園や広場」などが放課後の遊び場として多い傾向にあります。また「学校の教室」や「学校の運動場」も子どもたちの遊び場になっています。大都市では、児童館や図書館などの公共施設を遊び場としていることも多くあります。また、

放課後の子どもの遊び場



(出典：ベネッセ第2回子ども生活実態基本調査) ※大都市（東京都内），中都市（中規模都市：人口密度が中／人口20～30万人程度），郡部（町村部：人口密度が低／人口規模が1～2万人程度）

大都市では「ファーストフード店やファミリーレストラン」、「デパートなどがある繁華街」、郡部では「自然のあるところ」など、生活の身近にある場所を遊び場としている傾向にあります。

このように、地域特性によって子どもの遊び場は様々です。自分達の地域ではどんな場所で子どもたちが遊んでいるか、把握しておく必要があります。地域の安全点検や防犯パトロールを行う際も、地域の子どもの遊び場を中心に行うことで子どもたちの安全の確保に繋げることができます。また、子どもたちは放課後は地域で遊ぶだけでなく、塾や習い事に通っています。そのため、帰宅の時間が遅くなることも考えられます。通塾などに電車やバスを使う場合は、行動範囲も広がります。

児童館は、18歳未満のすべての児童が気軽に立ち寄れる施設で、全国に約4,700か所あります。自治体が運営する公営の施設と社会福祉法人等が運営する民営の施設があります。規模も小さな地域を対象とした小型児童館から、広域を対象とする大型の児童館まで様々あり、名称も「児童館」「子どもセンター」など地域によって独自のものとなっています。児童館では、学童保育を実施しているところが多くあります。

学童保育は、主に昼間留守家庭の児童の生活の場として、重要な役割を果たしています。子ども達は放課後、学校から直接児童館に向かい、夕方、家族が迎えに来るまでの時間をそこで過ごしています。

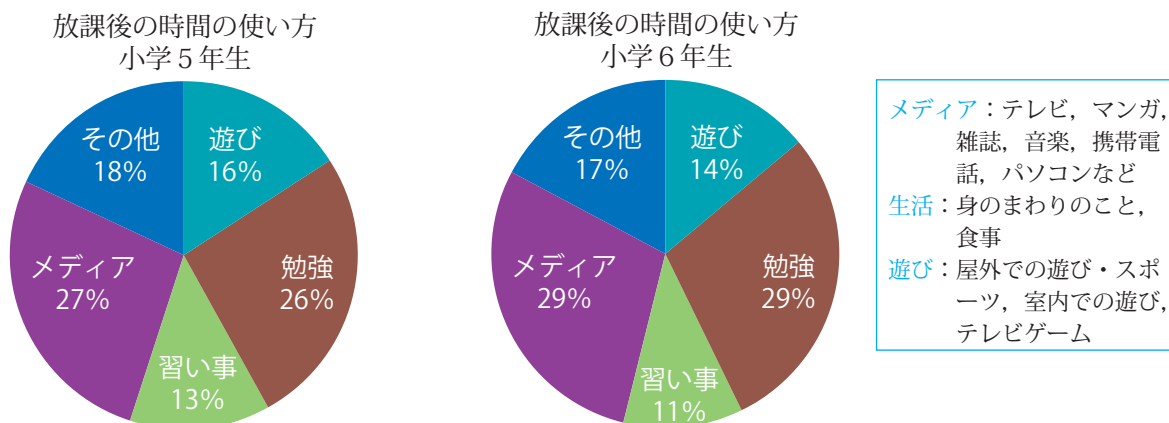
平成19年度に創設された「放課後子どもプラン」において文部科学省が新設した「放課後子ども教室」推進事業は、市町村が実施主体となって「放課後子ども教室」「放課後まなび教室」という名称で運営されています。各小学校の空き教室や図書館等を使用し、PTA関係者、退職教員、大学生、青少年、社会教育団体関係者など、地域の人々にボランティアとして協力を得て、放課後の子ども達に学習の習慣づけを図る「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」を提供するため、毎日または週に数回実施されています。「放課後まなび教室」では、登録した児童が主に宿題や自主学習、読書などをして過ごします。

(2) 子どもたちのよくやる遊び

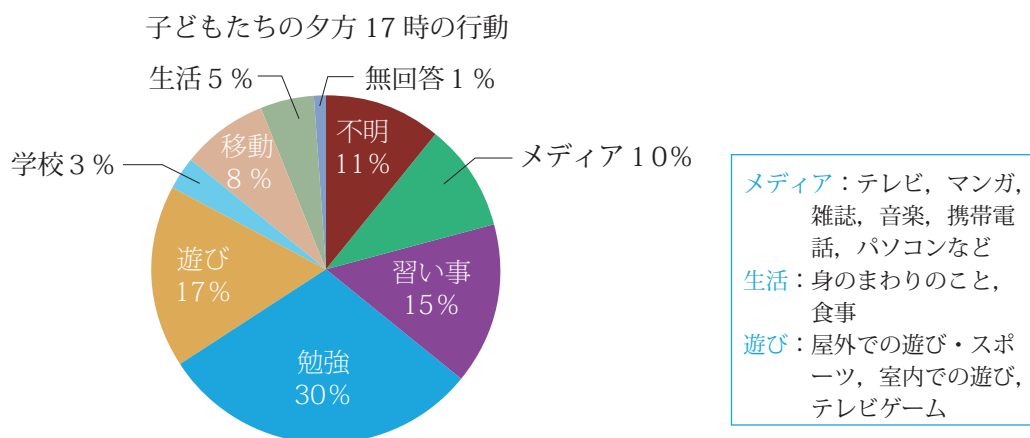
子どもを狙った声かけ事案では、子どもの好きな遊びやモノを話題に出し、子どもの興味を引きます。子どもたちがどのような遊びやモノに興味を持っているか把握しておくことで、子ども



小学5年生，小学6年生の放課後の時間の使い方



(出典：「放課後の生活時間調査 子どもたちの24時間」ベネッセ教育研究開発センター)



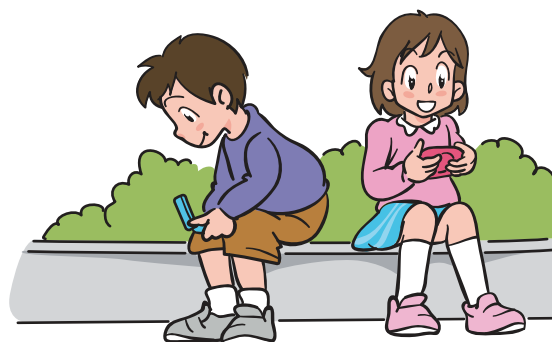
への防犯指導を行う際の参考にすることができます。子どもたちとのコミュニケーションをとる中で、興味のあるものや普段行っている遊びを聞くことを心がけます。

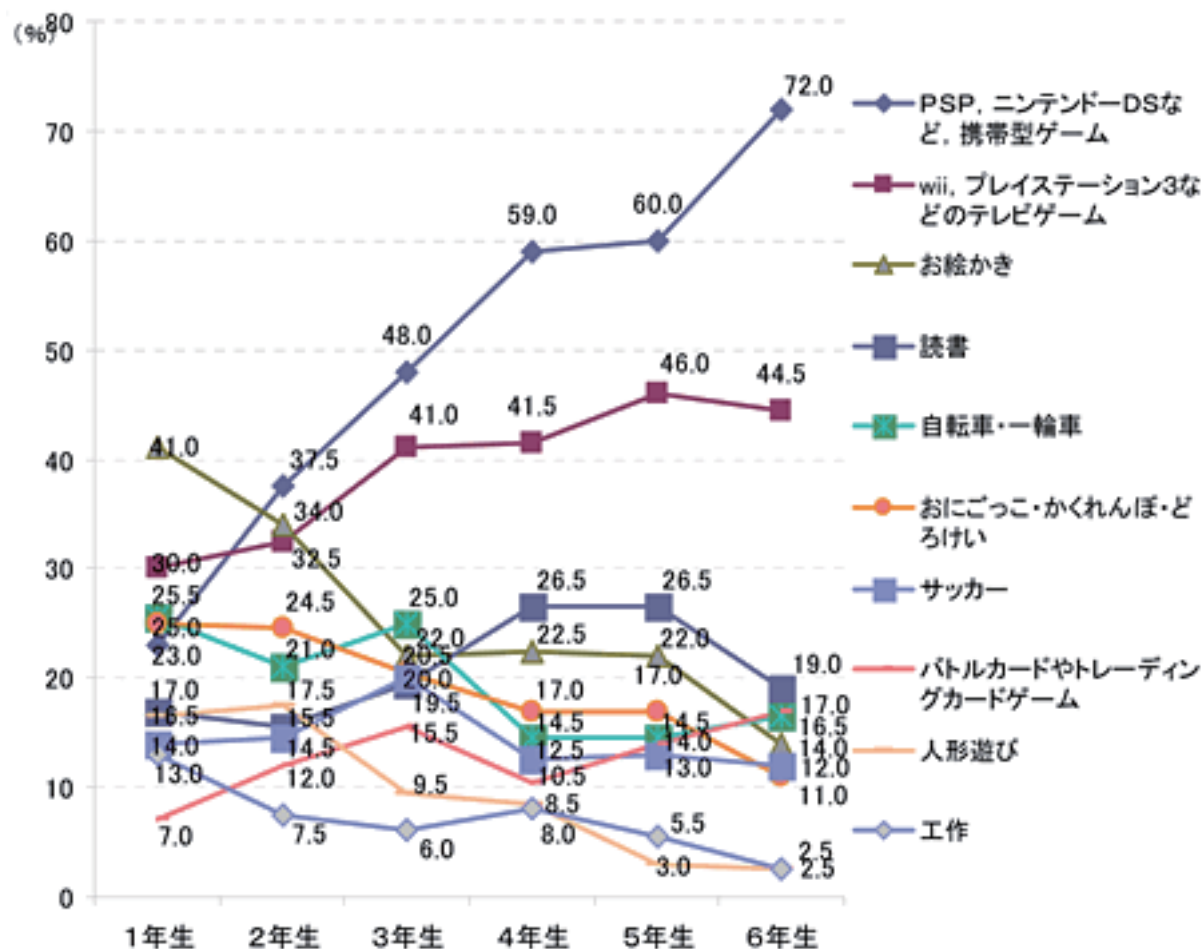
下の表によると、子どもたちがよくやる遊びは男女ともに「携帯型ゲーム」が多く、次いで男子は「テレビゲーム」、女子は「お絵かき」となっています。また「サッカー」「おにごっこ・かくれんぼ」「自転車・一輪車」など、放課後の校庭や公園など、外での遊びもあります。学年別にみた場合（右ページのグラフ）、高学年になるにつれておにごっこやサッカーなどの外で体を動かす遊びが減り、携帯型ゲームやテレビゲームで遊ぶことが増えるようです。

子どものよくやる遊び（よくやる遊び3つまでの複数回答）

好きな遊び	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男子	携帯型ゲーム	テレビゲーム	サッカー	トレーディングカードゲーム	おにごっこ、かくれんぼ
	53.7%	46.2%	27.2%	24.2%	17.8%
女子	携帯型ゲーム	お絵かき	テレビゲーム	読書	自転車・一輪車
	46.2%	42.7%	32.3%	26.8%	24.0%

（出典：小学生白書 Web 版 2010調査 学研教育総合研究所）





③子どもが相談しやすい地域づくり

子ども達は、嬉しいことや楽しみなことを信頼できる人に話したいと思っています。また、よく観察してみると、しぐさのひとつひとつにも理由があります。子どもの気持ちをくみ取り、相談がしやすい環境をつくるにはどのようにしたらよいか、考えてみるのが大切です。

関連

子どもの遊びと遊び場

子どもに人気のある携帯型ゲームは、室内だけでなく公園など外に持ち出して、通信機能を使って友達と一緒にゲームをすることができます。またファーストフード店やスーパーの玩具売り場などでは、携帯型ゲーム向けのサービスを実施している店舗があります。その場所に行ってゲームをすることで、新しいキャラクターやアイテムを手に入れることができ、子どもたちがゲーム機を持って集まることがあります。

トレーディングカードゲームは子どものお小遣いで買える値段のものが多く、スーパーやコンビニエンスストアで購入でき、その場で友達とカードを交換したり、対戦して遊ぶ子どももいます。

(1) 地域として

地域のボランティアは、学校と相談しながら、地域で子どもたちにとって安全で安心感が得られるような取り組みを推進することが必要です。例えば、地域で見守り隊を結成し、共通の見守り隊のジャンパー、帽子、たすきなどを決めます。地域の人と子どもたちがコミュニケーションをとるきっかけを作れるよう、学校の全体集会などを通じ、防犯担当の先生から子どもたちに、「この制服を着た人は、あなたたちを見守ってくれている人たちです」と伝えてもらうことが大切です。

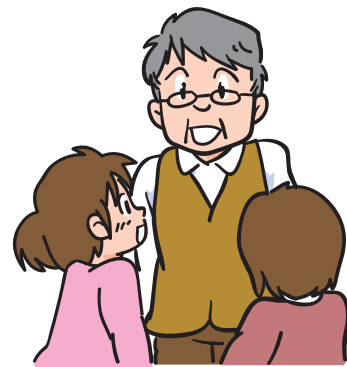
(2) 個人として

日ごろから子どもたちとコミュニケーションをとることにより、子どもが相談しやすい関係を築くことができます。

毎日の見守り活動の中で、あいさつから始めます。なかなか自分からあいさつができない児童もいますが、根気よくあいさつを続けていくことが必要です。

日ごろの登下校時の様子を観察して、子どもたちが話すきっかけになるような話題を選んで声をかけるようにします。例えば、「学校行事の話」「ゲームの話」「テレビの話」「放課後の遊びの話」「休日の話」などです。また、楽器や大きな袋、水筒など、いつもと違う持ち物などを持っているときには、「どんな曲を練習しているの?」「今日は何かあるの?」などの声をかけるとよいでしょう。運動会や学習発表会・マラソン大会などの学校行事の時には「ガンバレ」「応援しているよ」などと励まします。また、お祭りなどの地域行事があるときは参加するように促します。

子ども達から話しかけてきたときには、子どもの表情を観察しながら相手のペースに合わせ、ゆっくりと聞くことが大切です。



子どもや青少年を対象にした調査で、「子どもの生活全般の様子がわかる」報告書

「第1回子ども生活実態基本調査報告書」(Benesse 教育研究開発センター 発行)

http://benesse.jp/berd/center/open/report/kodomoseikatu_data/2005/

「第2回子ども生活実態基本調査報告書」(Benesse 教育研究開発センター 発行)

http://benesse.jp/berd/center/open/report/kodomoseikatu_data/2009_soku/index.html